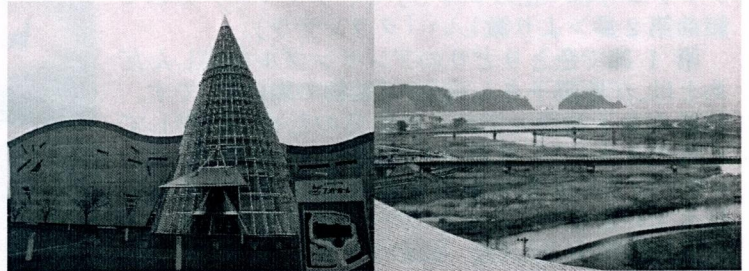


発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

日本フィルは3/11の東日本大震災以降「被災地に音楽を」送る活動を行っています。さる1/20~1/22、岩手県久慈市へ訪問しました(助成:公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 協賛:ローム株式会社)。そのレポートをお届けします。

【岩手県久慈市へ音楽を】

2009年に「ゼロ弾きのゴーシュ」公演のために訪れた久慈のアンバーホールへ、「被災地に音楽を」の活動で伺いたい、と震災後すぐに連絡をとり、ホールは無事と聞きました。海辺の900戸は流され直下の川にはあと10cmまで水が来ましたが、ぎりぎり無事だったとのこと。ローム ミュージック ファンデーションより「被災地支援コンサート」の助成金を頂き、久慈市教育委員会、アンバーホール、日本フィルが一体となって急ピッチで公演を作り上げました。



【1/20第1日目 アウトリーチ:おらほーる】

この地域の子どもの数に合わせて、客席数を決定したという地域密着型の「おらほーる(久慈市山村文化交流センター)」はこの日が年初めの稼働日だったとのこと。周辺の小中学校7校より子どもたちが次々にスクールバスで到着しました。山形小学校、小国小学校、霜畑小学校、戸呂町小学校、荷軽部小学校、来内小学校、山形中学校及び一般の皆さんで300人ほど。雪だったのでみな長靴をはき、カメラを構えると入口の看板の前でピースサインをして、にこにこ笑顔を見せてくれます。みな素朴で熱心に演奏を聴いてくれました。特に中学生には身を乗り出して聴いてくれる生徒もいました。



【1/20 アウトリーチ:岩手県立久慈病院】

午後は岩手県立久慈病院のロビーでアウトリーチコンサートを行いました。

病院の総合受付の待合椅子を動かして、ステージがセッティングされ、200人ほどのお客様が集まりました。吹き抜けに響く柔らかな音色に、病院の職員さんたちも集まって、手すりに身を預けてじっと見下ろされています。時々PHSで呼び出しがかかるようで、忙しく話しながら列を外れるのも病院ならではの風景でしょうか。



【久慈市の被災状況】

コンサートのあと、メンバーはマイクロバスに乗って、アンバーホールスタッフのご案内のもと、沿岸の被災状況を見せていただきました。

地震が起きた時、ホールでは付近の小中学校を集めて市の行事を行っていたそうです。地震のあと津波が押し寄せるまでの30分の間に、子どもたちを送り届け、職員の皆さんはホールにある展望タワーに上り、「海そのものが盛り上がるような」津波を見ました。「通勤車はもっていられるね・・・」とあきらめていたとのこと。しかし、実際にはアンバーホールを挟むように流れる大きな川が水流を飲みこみ、壊滅的な状況にはなりません。また、住民の皆さんは災害時に備えた避難訓練をよく受けておられ、3月11日は消防団も水門を見に行くなどの沿岸に近く行動はせず避難する、と判断されました。行方不明者がおられなかったために瓦礫撤去に重機を使うことができ、久慈の街の復興は早く、街中はほとんど震災前と変わらない風景に見えます。ただ、我々がこの日と次の日にバスで廻った沿岸では、道路標識や、ガードレールが水の流れにぐにやりと曲がって立っていました。「いくら」の製造工場が、使う半分だけ取り急ぎ立て直され、半分は鉄骨がむき出しになっていました。

